

令和7年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校池田校舎

1 附属高等学校池田校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

(2) 所在地

大阪府吹田市緑丘1-5-1

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

468人(男子216人・女子252人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用4人, 育児休業1人, 再雇用職員1人), 養護教諭 1人, 非常勤講師 9人, AET 2人
事務職員 3人(事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 1人

2 附属高等学校池田校舎の特徴

本校は1956(昭和31)年4月に創設された。本校の特色は、60数年の歴史の中で培われた自由・自主・自律を尊ぶ校風のもとで生徒一人ひとりの個性を大切にしながら質の高い教育を行っていることにある。国際教育にも力を入れており、2004年1月にユネスコスクールに登録され、アジアや北欧の高校生とESDをテーマとした学びの交流を続けている。

2020年4月にWWLコンソーシアム構築支援事業の共同実施校に指定され、拠点校である平野校舎とともに、「Society5.0に向かう生徒と教員のための『学びの共同体』の構築」を目的として「データサイエンスに基づくイノベティブなグローバル人材育成システムの開発」に取り組んでいる。「グローバル探究」や「データサイエンス基礎」、「イノベティブシンキング」などの学校設定科目のカリキュラムと評価方法の開発等を行い、2022年からは毎年、高校生国際会議を開催して国内外の連携校の高校生・教員と探究活動の成果を通じた交流と研修を行っている。

また、近年は生徒1人に1IDを付与するなど教育の情報化に積極的に取り組んでおり、令和3年度入学生からはBYADを開始し、ICT機器の活用場面を増やすことで、より一層の推進を図っている。

2022年3月にはSPSの認証を受け、2025年3月には継続認証を受けた。学校安全に高校生が主体的に取り組む活動を推進している。

3 附属高等学校池田校舎の役割

- (1) 基礎学力を充実させる普通教育を行う。
- (2) 大学学部の学生の教育実習を指導する。
- (3) 教育研究校・教育実践校として教育研究を進める。

4 附属高等学校池田校舎の学校教育目標

- ア) 自由・自主・自律の精神に富み、個性豊かな生徒を育てる。
- イ) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育てる。
- ウ) 国際性豊かで、平和を希求する生徒を育てる。

5 附属高等学校池田校舎の学校教育計画

- ア) 基本的な生活習慣の確立をはかり、生きる力を育成する。
- イ) 学力の充実をはかり、主体的に学習する態度を育成する。
- ウ) 生徒の個性を尊重し、自己実現できる機会を与える。

6 附属高等学校池田校舎の令和7年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------|--------------|---------|-----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | おおむね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| | | E | 判定できない |

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | ア) 自由・自主・自律の精神に富み, 個性豊かな生徒を育てる。 イ) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育てる。 ウ) 国際性豊かで, 平和を希求する生徒を育てる。 |
| 学校教育計画 | ア) 基本的生活習慣の確立をはかり, 生きる力を育成する。 イ) 学力の充実をはかり, 主体的に学習する態度を育成する。 ウ) 生徒の個性を尊重し, 自己実現できる機会を与える。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|---|---|---|--|----|---|----|--|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 探究活動の充実に 努め, 生徒の主体的な学 びを推進する。 | ①「総合的な探究の時間」 の活動を通して得た成果 を対外的に発表する機会 を設け, 生徒への参加を 促す。 | 校内の成果発表会では, 大阪大学か ら2名の教員と4名の大学院生に参 加いただき, 評価・コメントを頂く 機会とした。対外発表は個人・団体 でのべ33件の参加があった。内約 20件が賞を受賞した。 | 特定の生徒に偏っており, 探究 活動に生徒間でも温度差がある。 総合型推薦の合格者増につなげ たい。 | A | ・校内の成果発表会に大阪大 学の教員と大学院生に参加 いただいたのは, 生徒にとっ ても教員にとってもよい刺 激になったと思う。 | A | ・今後, 大阪大学との連携を強 化していくためにも, 成果発表 会以外でも, 積極的に大阪大学 との連携を図っていく。 |
| | ②高校生国際会議を大阪 教育大学, 平野校舎, 連 携校と協力して実施す る。 | 高校生国際会議を対面で実施し, 高 校生同士の交流を深めることがで きた。大阪教育大学の教員をチャー ターとして, グループに分かれ様々 なテーマで意見交換を進めた。運営 を担当する生徒もおり, 良い経験を得 られた。 | 「地域ALネットワーク事業」が 本年度で終わることが決まり, 次 年度以降に高校生国際会議を運 営する際の運営資金の確保が課 題となる。 | B | ・現在, 国際交流を行って る高校と国際会議を行えたら よいのではないかと。 ・WWL事業などが終了し, 予 算がつかない状態で行き 詰まりしているかが検討課題 である。 | B | ・これまで国際交流をしている 海外校との高校生国際会議を 開催できるように検討する。 ・運営資金に関しても, 継続で きるように工夫しながら取り 組んでいく。 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|--|---|---|---|--|
| (2)国際交流の機会を増やし、生徒のグローバル人材としての資質を高める国際教育を推進する。 | ①ユネスコスクール(ASPnet)として、国内外の学校と持続発展教育(ESD)や多文化理解の協同実践に努める。 | 10月29日～11月2日 韓国サンダン高校が来阪交流。生徒12名、教員2名が来校され、生徒間、教員間の良い交流となった。 | サンダン高校との交流はコロナ前の状況に完全に戻った。リトアニア・ジャミナ高校との交流も継続するが、距離や費用の面が課題となる。 | A | ・リトアニアなどの遠い地域の交流は、金銭的にも渡航時間的にも難しいので、近くの地域と交流するのはいい。 | B | ・サンダン高校のように時間軸(時差など)に重点をおき、オンライン交流や研修がしやすい地域や国との交流を強化していく。 |
| | ②新規の国際交流校の開拓。 | 5月29日 台湾師範大学付属高級中学の訪問を受け入れ。 5月に南オーストラリアを訪問。南オーストラリア教育省、バンクシャ校、シートン校を訪問。 | 令和8年度5月にオーストラリア研修を企画、実施予定。 台湾への海外研修を企画するも、台湾師範大学付属高級中学の行事予定と本校の予定が合わず、実施の目途がたっていない。 | B | ・中学校もオーストラリア研修を行っている。 ・ユネスコスクールではあるが、特別に予算が付かないなかで、継続実施していくことは大変と思う。 | A | ・高校と中学校との相互乗り入れは、今後活性化していく予定である。その一つとして、次年度はルワンダ研修がある。 |
| (3)セーフティー・プロモーション・スクール(SPS)認証校として、学校安全推進センターと連携しながら、安全教育、安全管理、安全点検などについて研究や実践を行う。 | ①学校安全管理マニュアル等の見直しや研修を通して教職員の安全意識の向上を図る。 | 本年度から、生徒会やSPSサポーターから全校生徒に対し、名札の常時着用を促している。 ほとんどの教職員が上履きをかかと付きに変え、教職員の防災・防犯に対する意識は向上している。 | 役割分担上、事故発生時の緊急通報や、家庭連絡の役割を経験できる教員数が限られている。役割分担の在り方を見直す必要がある。 | B | ・引き続き教員、生徒の枠組みにとらわれない、学校安全の取り組みを進めて欲しい。 | B | ・生徒も構内でのID着用することを推進していく。 |
| | ②SPSサポーター制度を活用して、高校生の学校安全への主体的な参加を促す。 | 安全点検を教員と生徒で行うことや、SPSサポーターが防災・防犯訓練の企画に参画することなどを通じて、生徒の学校安全への意識は変化している。 | 生徒の学校評価では教育環境の安全面に対する評価が改善。引き続き危険な箇所の改善を推し進める。本年度は、女子更衣室のレールの修繕や地震通報装置スーパードラゴンの交換を行った。 | A | ・生徒が主体となって学校安全に取り組むのは良いことである。継続して行ってほしい。 | A | ・次年度からは、既存の委員会で作成されたSPSサポーターではなく、生徒会の一つの委員会として、「安全委員会」が発足し活動を継続していく。 |
| | ③数少ない高校でのSPS認証校としての役割を果たす。 | SPSに関心がある学校への情報提供や実践事例の紹介の機会として、「セーフティー・プロモーション・スクール(SPS)推進員養成セミナー」で実践報告を行い、外部発信を行った。 | SPSの「7つの指標」に基づき評価・改善している状況を報告し、SPS継続認定を受けた。今後も継続的なSPS活動の実践が必要である。 | A | ・セーフティー・プロモーション・スクール認証校として、実践例を外部に発信していくことはとても良いことだ。 | A | ・今後も、SPSの取り組みを外部に発信していくことは継続していく。 ・小中高が連携した学校安全の方向性を検討し、積極的に連携していきたい。 |

| | | | | | | | |
|--|---|---|---|----------|--|----------|---|
| <p>(4) 生徒一人ひとりの個性を伸ばし主体性、協働性、創造性を育むために、教科外の活動を含む全ての学習機会を通じて、個人及び集団としての在り方を考えさせる指導を充実させる。</p> | <p>①生徒会行事について、健康・安全を最優先としつつ、過去の経験を生かして、実施可能な案を計画・実施させる。</p> | <p>Googleform など ICT を活用した、参加申込制度を導入して一般公開を実施した。熱中症対策として、換気の徹底、WBGT 計による熱中症リスクの管理を行った。</p> | <p>令和8年度中に体育館に空調設備が整備されることがほぼ決まった。しかしながら、令和8年の附高祭には間に合わない。実施時期の前倒し、リスク管理の徹底を継続する。</p> | <p>A</p> | <p>・体育館の空調設備の設置など、生徒会行事にかかわる施設改修の現状はどうなっているのか。</p> | <p>A</p> | <p>・体育館への空調設備に関しては、次年度設置される可能性が高い。しかし、夏以降にしか使用できないので、附高祭などは、昨年同様に熱中症対策を行って運営する。</p> |
| | <p>②新入生オリエンテーション(1年)、修学旅行(2年)について、旅行委員会を中心に企画・運営させる</p> | <p>新入生には例年実施していた研修合宿を取りやめ、校内で新入生オリエンテーションを実施した。修学旅行を10月に実施したが、好天に恵まれ、健康・安全に全ての行程を実施できた。</p> | <p>新入生の宿泊を伴う研修を校内でのオリエンテーションに変更した。教員の負担はかなり抑えられた。レクレーションなどを通して生徒間の関係も築けたようであるが、検証は必要。</p> | <p>A</p> | <p>・研修合宿を取りやめたのは、教員負担などを考えると仕方がない。</p> | <p>A</p> | <p>・研修合宿をただ取りやめるのではなく、国際センターや体育館、メディアセンターを利用して、ハートアクティビティなどを行った。 ・代替の有効性の検証が必要。</p> |
| <p>(5) 池田地区小中学校とともに、小中高12年間の一貫した学びを見据えて教育課題に取り組み、公教育の将来像を切り拓く拠点となることをめざす。</p> | <p>①教育活動における ICT の一層の活用に向けて、授業等での活用方法の研究と校内での普及活動を行う。</p> | <p>本校では、授業や学校生活の中で ICT 活用が当たり前のこととなっている。特に探究活動において ICT を駆使した成果報告がなされた。</p> | <p>池中では、生成 AI を授業に取り組み始めている。先進的な取り組みとして、教科指導にどのように活用できるか検証し、</p> | <p>B</p> | <p>・ICT 活用という面では、授業時の生成 AI の利用方法が、今後、課題になってくる。</p> | <p>B</p> | <p>・生成 AI の活用方法に関しては、先日、教員研修で安松先生にご講演と実践的な研修を行っていただいた。</p> |
| | <p>②池田地区合同研究発表会での小中高の連携強化を行う。</p> | <p>11月16日(土)に池田地区合同研究発表会を実施。小中高で教科領域部会を頻繁に開催し、連携を強化しながら取り組んだ。</p> | <p>「グローバル市民の育成」を軸に研究発表を行った。校種連携の研究授業を取り組んでいくことも必要かと思う。</p> | <p>A</p> | <p>・素晴らしいイベントだが、プログラムが多すぎて、多くの授業を見て回れない。</p> | <p>A</p> | <p>・プログラム内容をもう一度精査し、小中高の連携だけでなく大阪大学との連携もふまえて検討する。 ・SEEDs プログラムへ積極的に生徒を送り出していく。</p> |
| | | | | | | | |